



VTVジャパン株式会社

## デモルームのご案内

東京・大阪デモルームにて、各製品の展示、デモを行っております。  
お気軽にご利用ください。（要予約）

予約・お問い合わせ

TEL:03-5210-5021

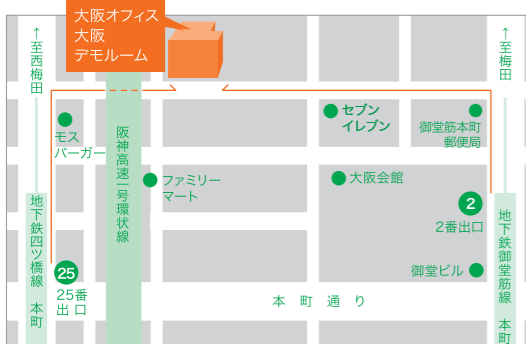
デモご予約ページ

<https://www.vtv.co.jp/demo/>



### 東京デモルーム(東京本社内)

東京都千代田区九段北1-11-11  
第2フナトビル6階  
地下鉄半蔵門線・東西線・都営新宿線  
九段下駅 5番出口より徒歩3分  
7番出口より徒歩2分



### 大阪デモルーム(大阪オフィス内)

大阪市中央区瓦町4-5-9  
井門瓦町ビル5階  
地下鉄御堂筋線  
本町駅 2番出口より徒歩4分  
地下鉄四ツ橋線  
本町駅 25番出口より徒歩4分



### メールニュースのご案内

月一回、オンライン会議の事例や製品などの最新情報、  
お役立ち情報をお届けします。

<https://www.vtv.co.jp/vtvjmn/>



お申し込みはこちらから

\* 本カタログの記載内容は2026年6月現在のものです。  
\* 利用シーンの写真には、はめ込み画像などイメージ画像が含まれます。  
\* 製品の外装・仕様・価格は、予告なく変更される場合があります。製品の詳細や仕様などについては、営業担当にご確認ください。  
\* 会社名および製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

# Casestudy Portfolio

オンライン会議システム導入・会議室構築事例



P02 山崎建設株式会社様

P06 くら寿司株式会社様

P08 ヤマウチ株式会社様

P10 興和アシスト株式会社様

Vol. 09

## 社屋移転を機に旧会議室の問題を一新！ ユーザー第一の運用設計で“簡単・ケーブルレス”なオンライン会議環境を構築



山崎建設株式会社様新社屋におけるオンライン会議室構築は、山崎建設株式会社様・丸紅-DIGIOグループ様、VTVジャパン3社連携のもと実施されました。

今回のオンライン会議室構築に至った経緯やソリューション選定について、山崎建設株式会社 廣瀬浩二氏、田村貞氏、丸紅-DIGIOグループ 川山昌也氏に伺いました。

※本事例は2025年10月に公開されました。内容はすべて取材当時のものです。

(写真左から)  
山崎建設株式会社  
管理本部 人事総務部 情報システム課 課長 田村貞氏  
管理本部 人事総務部長 廣瀬浩二氏  
丸紅-DIGIOグループ  
IT基盤サービスセグメント 基盤第二事業本部 エンタープライズ営業第一部 広域営業課 課長 川山昌也氏

### お客様プロフィール

土木事業を中心に全国で事業を展開する機械土工の専門工事事務所。1948年の創業以来、高い施工技術で高速道路、ダム、空港、トンネル、敷地造成、メガソーラーなど大規模工事を数多く手掛ける、業界のトップランナーとして存在感を発揮しています。

本社所在地：東京都中央区日本橋小網町18番8号  
創業：1948年4月1日  
URL：http://www.yamazaki.co.jp/



## 旧会議室で解消しきれなかった問題を、社屋移転を機に解決へ

山崎建設株式会社様(以降、山崎建設様)は、土木事業を中心に全国で事業を展開している機械土工の専門工事事務所です。都市インフラや公共施設の整備に数多く携わり、長年にわたって確かな技術力と誠実な施工で高い信頼を築いてきました。

山崎建設様は、事務所移転にあたり、旧事務所を抱えていた会議室環境の問題を解決すべくオンライン会議用機材の刷新に取り組みされました。同社ではコロナ禍を機にオンライン会議の利用が増え、旧事務所でもメイン会議室向けに機材を導入しました。しかし、旧事務所はOAフロアに対応しておらず、電源の位置も限られており、ケーブルが床にむき出しの状態でした。

「当時はマイク・スピーカーと専用の拡張マイク、80インチモニターに加え、モニターが見えにくい座席用に42インチのサブモニターを設置していたため、ケーブル類が“滝”のように散乱していました。」(田村氏)という言葉が、その状況を物語っています。

さらに同会議室は、会議だけでなく社内行事にも使われており、用途によって机や機材を移動・片付ける必要があり、そのたびに準備や撤収の手間が発生していました。

加えて、同社のメインツールであるGoogle Meetの利用においては、1台の会議用PCに多数のユーザーアカウントを作成して運用していたため、しばしばアカウントの切り替え忘れによる混乱が起きていました。会議準備作業が煩雑になり、機器の利用に不慣れな社員からIT担当である田村氏へのサポート依頼が相次ぎ、内線はまさにホットライン状態だったと言います。

「社員の声を反映しながら改善を図ってききましたが、レイアウトが固定できないこともあり、対応できる範囲に限界がありました。会議の際も“うまく接続できない”などのサポート依頼が多く、新社屋ではこうした問題をすべてクリアしたいという思いが強くなりました。」(廣瀬氏)と、当時を振り返ります。



## 「社員の誰が使ってもつながられる」を追求した、会議室ソリューションの選定

理想の会議室を求めて：ユーザーファーストな要件定義

新しいメイン会議室用のソリューション検討は、同社と取引のある丸紅-DIGIOグループの川山氏への相談からスタートしました。主な要件は以下の通りです。

- ・マイクとスピーカーは天井設置で固定し、社員が触らずに使えること
  - ・PCを利用せず、タッチ操作だけでGoogle Meetの会議に参加できること
  - ・Microsoft TeamsやZoomなど、他のツールにも対応できること
- ご相談を受けた川山氏は、「山崎建設様のご要望にお応えするには、仕様だけでなく運用面のノウハウが必要」と弊社にお声がけくださいました。

実機検証と運用設計：誰でも使える仕組みづくり

しかし、当時はGoogle Meetに対応した専用機で外部機器と接続できるインテグレーションモデルは市場にほとんどなかったため、導入予定の機器構成で問題なく動作するのか、希望する運用方法を実現できるのか、徹底的な実機検証を経て最終構成を確定する必要がありました。

「業界柄、対面コミュニケーションを重視する傾向はありますが、外部とのやりとりなど今後もオンライン会議の利用が続くことを見据え、サポートできる人がいないのでオンライン会議ができないことがないよう、“誰が使ってもつながれる”ことを重要視しました。

社外との接続機会が多いTeamsの専用機も候補にありましたが、優先すべきは社員の使いやすさと考え、社員が使い慣れているGoogle Meetを継いで使える環境を一貫して希望しました。」(廣瀬氏)

「今回選定した機器構成とGoogle Meetとの接続について、VTVジャパンが事前に実機検証してくれたことは、お客様に提案する立場としても非常に助かりました。」(川山氏)と当時を振り返ります。

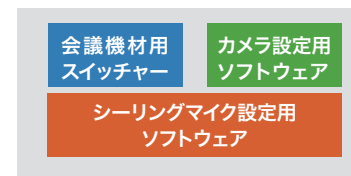
その頃VTVジャパンでは、会議室向けオンライン会議ソリューションの紹介セミナーを開催しており、「天井設置型のマイク・スピーカー」「話者追尾カメラ」「タッチパネルからワンタッチ参加が可能なオンライン会議専用機」を実際にご覧いただきました。

セミナーで紹介された構成はまさに新しい会議室のイメージに近く、同社のメインツールであるGoogle Meetの専用機をベースに、シーリングマイク、スピーカー、話者追尾カメラを組み合わせる方向で機器構成が固まりました。

さらに、機材を簡単に使うための運用設計も重要でした。導入予定のシーリングマイクは、予め設定した範囲の音声を集音し、話者追尾カメラは、設定した集音範囲内の音声を検知してカメラが動作します。新社屋移転後もレイアウト変更が必要なメイン会議室で利用するには、専用のソフトウェアで想定される利用パターンに合わせて予め集音設定や追尾画角の設定を登録し、会議の都度設定を切り替える必要があります。この切り替えを、メーカーが提供する管理者向けの専用ソフトを利用するのではなく、山崎建設様の目指す「誰が使っても、つながれる」運用に近づけるため、ボタン式スイッチで、シーリングマイクの集音範囲設定とカメラの追尾モードを切り替える仕組みを提案しました。

そして、「Google Meet対応の専用機であること」「物理ボタンで簡単に設定切り替え操作ができること」「シーリングマイク・スピーカーを採用し、触れずに利用できること」の3点が決め手となり、丸紅-DIGIOグループとVTVジャパンによる提案が正式に採用されました。

### VTV Smart Switchによる会議利用機器の設定切り替え



会議で利用する機器の設定切り替え作業を、ボタンで一元化してシンプルに。会議参加者は、会議スタイルに合わせて、各カテゴリから1種類ずつボタンを選ぶのみで、機材の設定を完了できる。

- ① 参加する会議の種類 (Google Meet/Zoom、Teams、資料共有のみ)
- ② 会議室のレイアウト (シーリングマイクの集音範囲)
- ③ カメラの利用モード(自動・手動)

#### 【設定切り替え例】

20名利用レイアウトでGoogle Meetの会議に参加し、話者追尾機能を利用する場合

- ①
  - ②
  - ③
- の順に選択

※ 会議中、カメラを手動操作に切り替える場合は のいずれかを押す

今回導入したソリューション



「社員の誰もが簡単に使える会議室」を実現するための複合的な仕組みを導入

改善とサポートを重ねながら、今後も“誰もが簡単に使える会議室環境”の実現を目指して

導入から半年が経ち、ご様子を伺ったところ、初期には一部不具合が見られ、会議室で検証を行う場面もありましたが、現在は概ね安定した稼働が続いているそうです。

「最近サポート依頼の声もかかりませんし、ちゃんと使えているのではないかと思います。」(田村氏)

会議室の利用環境も大きく変化しました。旧事務所ではオンライン会議が可能な会議室が2部屋と限られており、予約が取りづらい状況でした。新社屋ではメイン会議室のほか、応接室やテレカンブースを複数設け、オンライン会議用機材を導入しました。これにより、小規模な打ち合わせはテレカンブース、社外との打ち合わせは応接会議室、大人数や資料共有が必要な会議では大型ディスプレイを備えたメイン会議室を活用するなど、用途に応じた柔軟な運用が可能となり、業務効率も向上しています。

一方で、「誰もが使いこなせる環境」には、まだ到達していないという課題も残ります。

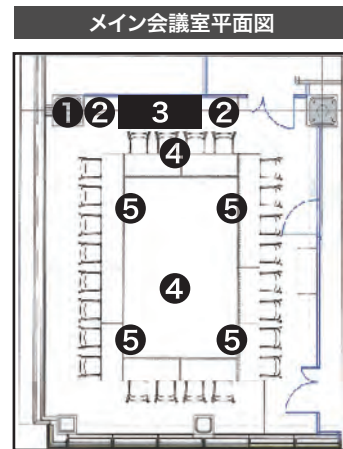
「準備の手間は大幅に軽減されましたが、社員全員が使いこなせるところまでは至っていません。たとえ良いものを導入しても、使ってもらえなければ意味がありません。引き続き会議ツールの利用に不慣れな社員のサポートを続け、利用に慣れてもらい、マニュアルを頼りに準備できる社員が少しずつ増えてくれたらと思います。」(廣瀬氏)

運用面においては、VTVジャパンの会議室向け保守サービス「VTV After Care」を活用いただき、設定の追加を実施しました。

VTV After Careには、導入後の運用の変化に合わせ、導入機器の設定変更や調整が含まれます。山崎建設様の場合、設置当時シーリングマイクの集音範囲は20人用・24人用レイアウトを想定した2パターンを用意し、16名で会議をする際のレイアウトでは、20人用レイアウトの設定で運用することを想定していましたが、実際の使用状況から音の拾いづらい場所があることが判明し、16人レイアウト用の集音範囲とカメラレイアウトの設定パターンを追加しました。

今後の展望としては、Google Meetと親和性の高い製品や、新機能の追加に対する関心も寄せられています。特に、24名など大人数の会議での画面共有を見やすくし、ペーパーレス化を促進する方法として、ワイヤレス接続できる小型モニターで資料がみられるようになる仕組みの検討など、新しい会議スタイルへの対応も、今後のテーマとして挙げられました。「安定して使えていると思いますが、今後もGoogle Meetと親和性の高い製品や新しい機能があればぜひ紹介してほしいですね。」(廣瀬氏)

今後も山崎建設様・丸紅-DIGIOグループ様・VTVジャパンの3社が連携しながら、快適にオンライン会議を行える環境づくりに取り組んでいく予定です。



- ① AV ラック内
  - Lenovo Series One (Google Meet 専用機)
  - Barco ClickShare CX-50 (ワイヤレスコンファレンスシステム)
  - VTV Smart Switch (ボタン式の会議室機材の設定切り替え器)
  - Shure IntelliMix Room (オーディオ・プロセッシング・ソフトウェア ※PC にインストール)
  - その他 オーディオプロセッサ、カメラ制御装置、USB マトリクススイッチャーなど
- ② AVer PTC310 UV2 (話者追尾機能対応 PTZ カメラ)
- ③ 85 型 4K 液晶ディスプレイ
- ④ Shure MXA920 (シーリングマイク)
- ⑤ Shure MXN5W-C (シーリングスピーカー)

メイン会議室 導入システム



メイン会議室の様子。レイアウト変更の影響を受けないケーブルレスな環境



応接会議室。パー型のGoogle Meet専用機を導入

山崎建設株式会社様のオンライン会議室構築は、丸紅-DIGIOグループ様との連携のもと実施されました。ご担当の川山氏に、コメントをいただきました。

◆ 丸紅-DIGIOグループ IT基盤サービスセグメント 基盤第二事業本部 エンタープライズ営業第一部 広域営業課 課長 川山昌也 氏より

今回、山崎建設様のご移転を伺い、新設される会議室でご利用のWEB会議システムご提案の機会をいただきました。山崎建設様は従業員目線で検討を進めておられ、当時選択肢としては難しいGoogle Meetの活用や、だれでも簡単に利用したいなどのご要望を満たす提案をするには、VTVジャパン様が最適と考えお声がけし、一緒に提案を進めました。会議室課題で以前から協業してきたVTV様は、お客様目線での検証や手厚いサポートが特長で、商談で何度もお客様先に足を運んでいただきました。導入後に生じた小さな不具合にも迅速・確実に対処いただき、大きな安心感と導入効果を実感しています。今後も、幅広い商材の提案、導入をサポートいただき提案を進めていきたいと思います。

## 会議室の音響設備を刷新し、音声品質が劇的に改善 「高品質で使いやすい」快適なオンライン会議室環境を実現



システム導入の経緯や選定のポイントについて、くら寿司株式会社の橋本 大介氏に伺いました。

※この記事は2026年1月に公開されました。内容は全て取材当時のものになります。

くら寿司株式会社  
執行役員 テクノロジー本部長  
橋本 大介 氏

### お客様プロフィール

くら寿司株式会社は、「安心・安全でおいしい寿司を、手頃な価格で提供すること」を理念に掲げる回転寿司チェーンです。4大添加物を使用しない独自の品質方針を徹底し、食の安全と信頼を重視した商品づくりを行っています。また、AIやテクノロジー、自社開発を積極的に活用したスピード経営を推進。日本国内にとどまらず、北米・台湾など海外にも事業を展開し、グローバルに成長を続けています。

本部住所：大阪府堺市中区深阪1-2-2  
創業：1977年5月  
会社設立：1995年11月  
URL：<https://www.kurasushi.co.jp/company>



### 音声品質から会議運用まで、オンライン会議室環境の全面見直しを実施

国内約550店舗のほか北米や台湾など海外拠点を展開しているくら寿司様では、拠点間コミュニケーションの重要性が年々高まってきました。その中で、オンライン会議は欠かせない手段として早くから活用されています。

これまではオンライン会議ができればよいという考え方が中心で、音質や使い勝手まで踏み込んだ検討は十分に行われていませんでした。

役員会議室で行われるオンライン会議では音声品質が悪く、「声が聞き取りにくい」、「ストレスを感じる」などの声が上がっていました。

また、大会議室は、広さゆえに話者の声が全体に届きにくく、発言のたびに声を張り上げなければならない状況でした。さらに会議体に応じてパーテーションで区切って利用できる可変型の会議室だったため、都度マイクの配置を変える必要があるなど、運用面でも課題を抱えていました。

そこで、単に「オンライン会議ができる」会議室から一段階進み、音声品質や使い勝手にまで踏み込んだ音響環境そのものを見直すことになりました。

### シーリングマイクShure MXA920を導入し、音に関するストレスを解消。

#### 意思決定に集中できる役員会議室へ

役員会議室では国内外の拠点とオンライン会議を行う機会が年々増えていました。音響システムは卓上型のマイクスピーカーフォンを使用していたが、音声が途切れたり、相手の声が聞き取りづらいといった問題が慢性的に発生しており、会議のたびにストレスが積み重なっていました。

特に国際会議や重要な経営会議では、発言内容を正確に共有することが求められますが、聞き返しが頻繁に発生するなど、議論に支障をきたす場面も少なくありませんでした。「音声が聞き取りづらい」「ストレスを感じる」といった声も上がり、役員会議室という重要な場にふさわしい環境とは言えない状況でした。限られた時間の中で迅速な意思決定を行う必要があるにもかかわらず、こうした音声トラブルが集中力や生産性を下げてしまうことが大きな課題となっていました。

こうした課題を解決するため、役員会議にふさわしい音響環境の構築を目指し、Shureのシーリングマイク「MXA920」の導入を検討。導入にあたっては事前にデモを実施し、実際の会議環境で音質や集音性能を確認しました。

MXA920は集音性に優れた天井設置型マイクで、発言者はマイク位置を意識することなく会話が行えます。机上に機器を置く必要がないため、

会議室全体をすっきりとした印象に保つことができます。

役員からも「音質がよくなり議論に集中できる」「マイクを気にせず自然に会話ができる」といったご意見をいただき、高く評価されています。



天井にマイクを設置することでテーブル周りがすっきりした役員会議室

## 会議室の特性に合わせた音響システムで、誰もが発言しやすい会議室環境を構築

大会議室では、多人数での役員会議や部門横断の会議、説明会などが頻繁に行われており、レイアウトや規模・用途が多岐にわたりました。しかし部屋が広いこともあり、話者の声が会場全体に届かず、聞き取りづらい状況が続いていました。さらに、プロジェクターの見づらさ解消を目的に各テーブルにディスプレイを設置したことで音の通りがさらに悪くなり、長時間の会議では大きなストレスとなっていました。

「役員会議室と同じようにシーリングマイクの導入も考えましたが、大会議室は天井が高いため向きです。ハンドマイクも試したのですが、発言のたびにマイク操作が必要で運用面で問題がありました。誰もが気軽に発言できるシステムが理想でした」（橋本氏）

こうした課題を解決するため導入されたのが、Shureのワイヤレス会議システム「Microflex Complete Wireless (MXCW)」です。MXCWはグースネックマイクとスピーカーを搭載した会議ユニットとアクセスポイントで構成され、会議参加者一人ひとりの手元で話者の声を確認できる設計となっており、会議室のどこに座っていても音声が明瞭に聞き取れます。参加者の発声を検知して自動的にマイクをオンにするハンズフリーモード

機能が搭載されており、発言時にはボタン操作を必要とせず、話し始めると自然に集音されるため、会議の流れを止めることなくスムーズな進行が可能です。お客様が希望されている、気軽に発言できるシステムの要件と合致していました。

さらに可動式カートに会議ユニット・充電台・アクセスポイントなど一式をまとめることで、常設設備としてだけでなく、他の会議室へ持ち運んで使用することもでき、会議の規模や用途に応じて柔軟に対応できる点も大きなメリットとなっています。現在では、オンライン会議だけでなくオフライン会議でもMXCWを活用し、ストレスのない快適な会議が行われています。

「MXCW導入の決め手の1つは参加者の手元で声が聞こえる点でした。会議室に設置する外部スピーカーよりも声が自然に聞こえて、ケーブル配線や調整もありません。管理者としてのメリットも大きいと感じました」（橋本氏）

導入前にMXCW数台を実際の会議で試用したところ、役員からの評価が大変高く、現在20台が導入され、日々の会議に活用されています。



マイクスピーカー一体型のMXCW。手元で話者の声を聞き取れる



可動式カートにワイヤレス会議システム一式を載せて移動可能に

### 会議品質・生産性向上—シンプルで使いやすいシステムがもたらした大きな変化

Shureの音響ソリューションを導入したことで、会議環境全体に対する印象が大きく変わりました。聞き取りづらさや音声トラブルに関する不満が解消され、会議そのものに集中できる環境が整いました。音に関するストレスがなくなり、会議の進行がスムーズになるなど、議論の質やテンポにも良い変化が生まれています。

音声環境が会議の質に与える影響は非常に大きく、聞き返しや機器操作といった要素が、集中力や生産性を左右していたことをあらためて実感しています。導入後は、そうした無意識のストレスが取り除かれ、議論や意思決定に自然と意識を向けられるようになりました。

また、操作がシンプルであることも、高く評価されています。特別な設定や操作を意識する必要がなく、誰でも同じように使える点は、利用者だけでなく管理者にとっても大きなメリットとなっています。「シンプルに利用できるためマニュアルも必要なく、教育コストがほとんどかからないこともよかったですと感じています」（橋本氏）

会議前の準備やトラブル対応にかかる時間が減り、会議運営そのものが効率化されました。

くら寿司様では今後もオンライン会議の活用がさらに広がっていくと想定しています。会議室での利用に加え、個人席でのオンライン会議やナレーション収録など、パーソナルスペースにおける音環境整備にも関心を寄せています。

「オンライン会議は、リモート参加者がよそ者扱いになりやすい環境です。この問題を払拭し、公平に議論へ参加できる環境を整えていきたいと考えています。

今後の新しい技術や製品を積極的に検討し、リモートワークやオンライン商談を含めた全社的な音声品質の課題を解決していきたいと思えます」（橋本氏）

今後より良いオンライン会議環境で運用できるよう、引き続きサポートしてまいります。

#### 導入システム



## 既存テレビ会議システムの保守終了を機にオンライン会議用設備を刷新 シーリングマイク導入で叶えた「話すことに集中できる」次代会議室



オンライン会議用設備のリプレイスに至った経緯や今回のソリューションを選択した理由、実際に利用してみた感想を、DX推進グループメンバーとして導入を担当された、ヤマウチ株式会社経理部の中原優一氏に伺いました。

※本事例は2026年4月に公開されました。内容は全て取材当時のものになります。

## 約3ヶ月でのスピード導入で目標達成。ストレスフリーで「すっきりとした」理想の会議環境を実現

今回のリプレイスは夏頃に計画が立ち上がり、冬に控えた重要な経営方針会議までに環境を整えたいという明確な目標がありました。そのため秋には導入を完了させるという、約3ヶ月の非常にスピーディな進行となりました。

この短期間での導入を成功に導いた要因のひとつが、現地会議室で検証のために行ったデモンストレーションです。広い大会議室でも音声クリアに集音できるかを確認するためにプロジェクト担当者や関係者が集まり、シーリングマイクの持ち込みデモを実施しました。現地で十分な

音声品質の確認ができたことが導入への大きな安心感に繋がりました。

また、実際に機器を設置する時には、VTVジャパンとメーカー担当者が細部まで入念に調整とテストを行いました。「設置後の社内展開の際にも、提供されたマニュアルへの加筆(ClickShareの使い方)要望に対して迅速な修正対応をしていただいたことで、スムーズな利用周知ができました」(中原様談)。こうして目立ったトラブルもなく、無事にスケジュール通りに新システムでの運用が開始されました。

### お客様プロフィール

ヤマウチ株式会社は、創業100年を超える工業用ゴム・樹脂・金属を材料とした精密部品メーカーです。独自のハイブリッド技術を強みに、幅広い工業分野で事業を展開し、グローバルに製品開発を行っています。

本社所在地：大阪府枚方市招提田近2-7  
創業：1918年4月  
URL：https://yamauchi.co.jp/



## テレビ会議システムの保守が終了。リプレイスに向けてオンライン会議システムの課題を整理

ヤマウチ株式会社は、1918年創業の工業用ゴム・プラスチック製品の専門メーカーです。国内外に複数の拠点を展開しており、拠点間のコミュニケーションを重視されています。約10年間利用してきたテレビ会議システムの保守終了が、今回の刷新の大きなきっかけとなりました。

同社では業務改善や古い設備の刷新、AI導入などを推進する目的で「DXプロジェクト」を立ち上げ、全社のWeb会議ツールとして「Microsoft Teams」の導入を決定しました。それに伴う会議室設備のリプレイスも、同プロジェクトの一環で実行されることになりました。

プロジェクトメンバーである中原様は、当時のオンライン会議環境で複数の課題を認識しており、改善の必要性を感じていました。保守サポート

が終了した既存システムは「音声が聞こえない」「声が途切れる」といったトラブルが発生し、社内から不満の声が上がっていました。運用面においても発言者が変わるたびにマイクを目の前に移動させたり、マイクの位置を気にしながら話さなければならず、手間やストレスが生じていました。さらに物理的な環境としても、机の上に有線マイクのケーブルが乱雑に置かれていることで見栄えが悪くだけでなく、手足が引っかかる危険性も懸念されていました。これらを根本から解消するため、「Teamsでの会議に適した音声設備の整備」と「コードレス(ワイヤレス)化による安全ですっきりとした会議室の構築」を目的に、今回のリプレイス計画がスタートしました。

## 豊富な事例によるイメージの具体化と、担当営業の対応力が導入の決め手に

コードレスの音響機器を調査する中で、中原様はShure社の天井設置型マイク(シーリングマイク)を知り、VTVジャパンのホームページにたどり着きました。Webサイトには「シーリングマイクでコードレス化」を実現した事例が豊富に掲載されており、自社の会議室の具体的なイメージを掴むことができました。さらに、「ClickShare」を組み合わせることで、PCを接続するだけで会議室備え付けのマイクやカメラとワイヤレスに連携できることが分かり、配線のない「完全なコードレス環境」の実現イメージが一層明確になりました。

中原様は他社の成功例としてVTVジャパンの事例ページを自社の社員と共有することで、やりたいことのイメージを伝えやすかったと当時を振り返ります。こうして、社内の合意を得て、VTVジャパンへ問い合わせをいただきました。

販売会社を決定するにあたり、実は他の複数ベンダーにも問い合わせをしていました。スケジュール感やコスト面では大差がない中で、決め手となったのはVTVジャパン営業担当の対応力でした。

中原様には「細かな疑問や要望をうまく拾い上げ、丁寧に対応してくれた」と評価をいただきました。今後の他拠点への展開も見据える中で、「長く頼れるパートナーである」と実感いただけたことで、今回の導入が実現しました。

ClickShareはPCに挿して押すだけでディスプレイやマイクなどの周辺機器と接続完了



大会議室の天井中央にシーリングマイクを配置



カメラ・マイク・スピーカー一体型のビデオバーをディスプレイ上に設置



シーリングマイク用の機材はAVラックに収納してケーブルレスを徹底



小・中会議室(応接室)も大会議室と同様にすっきりとした会議室に

## シーリングマイクの良さを改めて実感。今回も保守加入で快適な会議室環境の継続をサポート

今後の展開として、今回枚方本社で導入したシステム構成を社内標準とし、全社的に展開していくことを計画されています。4月導入予定の京都の長野田工場や2~3年後に予定されている栃木工場の新棟建設の際にも、同様の構成で設備の統一を図る意向です。

実際に利用を開始してみてわかった要望なども、弊社サポートデスクで迅速に回答し解決へと支援しています。VTVジャパンの「些細な質問にも的確に答えるレスポンスの速さ」をご評価いただいております。今後の拠点拡大に向けても、引き続き手厚いサポートを期待されています。

### 導入システム



## オンライン常時接続システム「VTV Office Leap」が同じオフィスにいるかのような環境を実現 支社勤務社員の孤立感と不安を解消し、社員の一体感を醸成



システム導入の経緯や選定のポイントについて興和アシスト株式会社 吉田 諭史氏に伺いました。

※本事例は2025年8月に公開されました。内容はすべて取材当時のものです。

興和アシスト株式会社  
常務取締役  
吉田 諭史氏

### お客様プロフィール

興和アシスト株式会社は、2005年の設立以来、不動産の賃貸借契約をスムーズにする家賃債務保証の分野で確かな実績を築き、国土交通省に登録される家賃債務保証業者として成長を遂げてきました。不動産オーナーや不動産会社、入居者や土地・建物の買い手となる人など、不動産契約に関わる人々が安心して賃貸借契約をおこなえるようスムーズな取り引きや手続きをアシストしています。  
本社：大阪市中央区瓦町1丁目4番8号 瓦町恒和ビル4F  
設立：2005年2月  
URL：<https://www.kowa-assist.jp/>



## 社員の定着率向上と働きやすい環境づくりを目指してー常時接続システム導入の経緯

興和アシスト株式会社様は設立以来、人の暮らしとは切っても切れない「住」についてのさまざまな課題を解決するサービスを展開しています。人口減少や高齢化社会が進み、不動産に関わるリスクやトラブルが増加する中、賃貸借契約をスムーズにする家賃債務保証の分野で成長を遂げてきました。

同社が常時接続システムの導入を検討し始めた背景には、本社以外の支社社員の定着率向上が課題にありました。

本社には多くの社員が勤務しており、審査部・管理部・総務部など複数の部署があります。一方、支社には営業担当と関連業務の担当者が数名しかおらず、事務所に誰もいない状況が頻繁に発生していました。実際に支社に入社した社員が「事務所に人が誰もいない」という孤立感や会社運営への不安を感じ、それが離職につながったケースもあったそうです。

本社と支社を接続する常時接続システムを導入することで、支社の社員が感じている疎外感をなくし、社員が「一体感」を感じるようになることを期待されました。

また副次的な効果として誰が出社しているかをすぐに確認できることや、困った時にすぐに声をかけられる環境を構築できるのでは、と考えました。

そこで同社は常時接続ができるコミュニケーションツールを検討するにあたり、情報収集や検証を行いました。

初めに元々グループウェア契約があったGoogleのオンライン会議・Google MeetやMicrosoft Teamsを使って常時接続が可能か検証してみました。併せてZoomも検証を試みましたが、それぞれが常時接続の専用システムではないため常時接続を行うには使いにくいと感じたそうです。その後、常時接続専用のシステムについて調査をすすめたところ、当社を含む3社の製品に注目されました。

## 常時接続をリアル体験できるデモンストレーションでシステムを比較検討

情報収集を進めるうちに「実際にデモを見てみたい」という思いが強まりました。そこで、自社の目的に合ったシステムを見つけるために、デモンストレーションを受け、比較検討した上でシステムを選定することにしました。

デモンストレーションでは、文字を流す掲示板機能やニュース表示機能といったオプション的な機能が付いているものや機能がすぎるシステム、ただ繋がるだけのシンプルなシステムとさまざまでした。

そこで自社が求めている常時接続の機能とシステムの品質とのバランスを考えてシステムの絞り込みを行いました。

比較検討をじっくり行った結果、VTV Office Leapが選ばれました。VTV Office Leapが選ばれた決め手は、コストパフォーマンスの良さ

と導入のしやすさでした。他社システムの多くが各拠点に専用端末の導入が必要であるのに対し、VTV Office Leapは既存のPCを使用できるため、導入の手間やコストを抑えられる点が非常に魅力的だったと言います。

また他社と比較しても機能面での違いはほとんどなく、コストの差が決定要因となりました。



## 「一体感」と「効率化」 常時接続システムがもたらすさまざまな導入効果

常時接続システムを導入した当初は、一部の社員から「監視されているように感じる」という声もありました。しかし、本社もそれぞれの支社も全員が同じようにシステムに映っていることで、「自分たちだけが見られているわけではない」という認識が広がっていきました。

導入して5か月が経過した現在では社員たちはシステムに慣れ親しんでおり、今ではつながっていることが「当たり前」になっている状態です。「あつて良かったね」「便利だね」という声も聞かれるようになりました。

特に本社以外の支社では、営業社員が外出すると事務所に一人だけになることもありましたが、システムを通じて常に誰かとつながっている感覚を得られるようになり、寂しさを感じることは少なくなった

そうです。

システム導入によって社員がこれまで感じていた疎外感がなくなり、一体感が生まれたと感じています。

また、誰が社内にいるのかが一目で分かるため、在席中の人にすぐに連絡が取れるようになるなど、コミュニケーションロスを減らすことができました。

目の前で書類を見せながら話したり、PCの設定について指示したりするなど、迅速なコミュニケーションが可能になりました。

VTV Office Leap導入以来、大きなトラブルもなく毎日活用されています。



全拠点を一斉自動接続。在席確認もすぐに行え、業務効率がアップ



同じ空間で働いているような感覚で支社勤務社員も安心して業務が行える

## 全社をつなぐ次の一歩、常時接続システム・VTV Office Leapの新たな活用へ

今後は社内コミュニケーションのさらなる活性化を期待しています。離れた拠点の各部署の社員が、「まるで隣りで話すかのように」気軽に連絡を取り合える環境を理想としています。現在はTeamsなどで会議を行うこともありますが、より日常的な「立ち話に近い形」でのコミュニケーションが実現すれば、実行部隊とバックオフィスの距離感がさらに縮まり、業務がより効率的になると考えられています。

VTV Office Leapの「一斉配信モード」機能はまだ利用していませんが、全体朝礼や半期総会など、全社的な集まりで活用できる可能性があると考えています。今後は、この機能も試してみたいとのこと。今後も快適なオンライン常時接続環境での運用ができるよう、引き続きサポートしてまいります。



VTV Office Leapの一斉配信モード

### 導入システム

#### VTV Office Leap Rレンタルモデル

\*親拠点周辺機器、子拠点PC、周辺機器はお客様にて手配

#### 【5拠点に導入】

大阪本社1（親拠点） / 大阪本社2（子拠点） / 大阪本社3（子拠点）  
東京支社（子拠点） / 四国支社（子拠点）

